

departing from complex

001 桐朋高等学校 鉄道研究部

目の前が真っ暗だ。

パッと白い光が覆ったかと思うとそこは知らない、雑踏の街だった。
複雑な線路の上を滑りかまぼこ屋根の下へ吸い込まれていく赤い帯の電車。知らない建物。

街ゆく人の服装も全て見覚えがない。恐る恐る歩を進める。

本当にここは渋谷なのか。確かに僕はVRソフト「パストトラベル」で15年前に設定したはずだ。向かう方向も皆ばらばらで駅前は混迷を極めている。この人は皆、自分の存在以外認めていないように駅前を往来していくのだ。

いや違う。

歩いて分かった。こんな混迷の世界では自分のことで精一杯だ。確かに存在する横の人のことを気にする余裕もない。繋がりの断絶だ。この病める世界では隣同士の幸せ願うことなど絵空事？
そんな世界なんて嫌だ！

衝動的に仮想空間を取り除く。整然とした渋谷が広がる。
地面から、見えない電車の振動を感じ、あの世界を思い出す。

ただ澄み渡っている「空」を見る。信号が青になる。人々が動き出す。